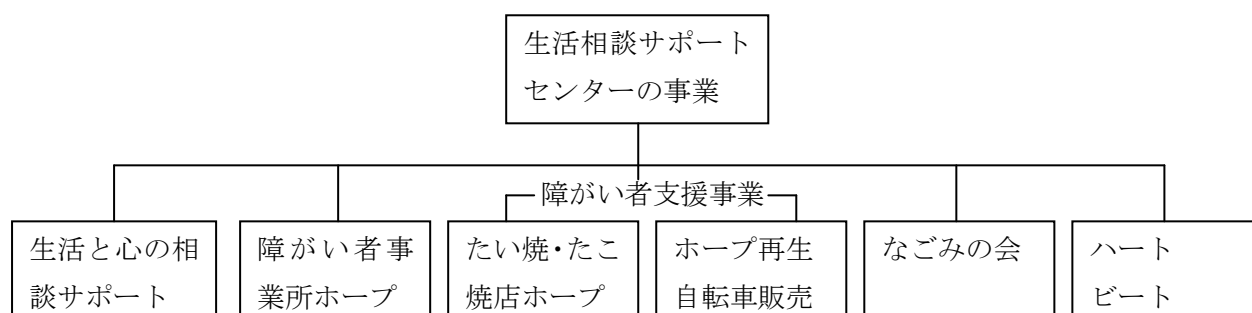


昨年度事業報告（27年10月～28年9月）

1. 概況

25年11月に、西区山の手・琴似地区に事業所を移転し約3年が経過しました。昨年度事業で特記すべきは、障がい者の為の支援事業として、27年3月に開始した「希望再生自転車販売」が、本年度飛躍的に事業の急拡大がはかられ、また、多くのマスコミに取り上げられました。この事などを通じて私達の活動が、札幌市内はもとより、広域に周知されつつあると感じています。

また、いろいろな面で神の祝福をいただいております。感謝しています。



…沿革と決算推移は付表①の通り

2. 生活と心の相談サポート

| | 新規相談件数 |
|-----------|--------|
| 昨年度 | 92 |
| 累計(7年5カ月) | 744 |

相談サポート事業を開始以来、相談件数が744件となっています。近年、相談内容は、第2のセーフティーネットが機能している為、極端な生活困窮は減少しながらも、恒常的な経済不安（ワーキングプア等）や心の悩み等多様化の傾向が続いています。また、依然としてホームレスの方の相談支援（複数の教会からの支援要請もある）も行っています。また、ネットを通じ、道外のホームレスの方からのSOSもありますが、ホームレス支援ネットを活用し（会員）、連携して対応を図っています。

3. 障がい者事業所「希望」

- ・希望登録利用者は、現在30名であり、年々利用者が増加傾向にあります。養護学校や病院関係からの見学者も増えています。
- ・仕事の多様化と利用者の特性に応じた仕事の提供をめざし、軽作業の品ぞろえ、恒常的ポスティング実施、オリジナルの仕事である犬用クッキー、たい焼・たこ焼、再生自転車を充実させてきました。

- ・ホープの特徴である内部研修活動を開始してから3年目になります。利用者が自信と生きがいをもって、生活や仕事ができる様、生きる上での基礎的な研修を毎週実施しています。…付表2参照

パソコン研修も週一回行い、レベルに応じ、資格試験受験者も出ています。

4. 障がい者支援事業

(1) たい焼・たこ焼店ホープ

27年3月から、従来の西野店から移転し、2年目を迎えました。ホープ再生自転車販売から自転車購入のお客さんに、たい焼きプレゼントを始めたことから、お客のリピートが期待できます。一方、ベテランメンバーの入院などからの開店期間の短縮をせざるを得なくなりました

(2) ホープ再生自転車販売

事業規模の拡大をめざし、28年3月の開店に向け、周到な準備を図ってきました。札幌市競売入札業者への登録、大型保管倉庫の確保、1階駐車スペースを自転車販売店舗兼作業所への改造、徹底的なコマース戦略（HPの立上げ、大型看板設置と事務所ウィンドディスプレイ、ポスティングの強化）等がその主な取組です。

その結果、本年は、3月～9月末で895台（昨年148台）の売り上げとなり、飛躍を遂げました。良品を手ごろな価格で提供していること、そして障がい者が充実感を持って作業に取り組み、自信を深めていることが対外的に評価され、マスコミ各社に大きく取り上げられました。テレビ3局と新聞には8回（道外の地方紙2回を含む）、あわせて11回も掲載・放映され、驚くとともに、神に感謝しています。

5. なごみの会（引きこもりがちな方及び障がい者の為）

毎月一回のペースで、継続開催しており27年9月の開催で、70回目となっています。お箏の上野さん他の「なごみーず」の演奏や竹内さん他の昼食がこの会を支えてくれています。参加者の歌やゲーム、そして百円会費の食事等、肩のこらない不思議な空間が定着しています。

6. ハートビート

定例のハートビート10回開催の他、ユニフェス2回協力、ICF教会こども行事1回協力、札幌雪まつり出演（連続出場2回目）、平岸ミュージックフェスティバル出演（連続出場3回目）しました。

ブラウン家4名と当会スタッフ小野がファシリテーター養成セミナーに参加しました。2015年11月より、参加費を減額（大人¥1,500→¥500、子ども¥1,000→¥300）しました。

- 付表 ① 生活相談サポートセンターの事業推移
② 事業所ホープでの研修メニュー（例）